

「河川環境・・・維持管理」の説明への疑問

2007年9月18日

自然愛・環境問題研究所 代表 浅野隆彦

- 1) 河川環境の保全に関する基本的な考え方として、○ 河川環境の保全・再生は「『川が川をつくる』のを手伝う」という考え方を念頭に実施。するとして、◇ 徹底した連続性の確保
  - ◇ ダイナミズムの再生
  - ◇ 水循環の健全化                   などを挙げている。(P.3)
- 5 図) そう言うからには、「既設ダム撤去」を含むことになるが、それは全否定されるのか？  
或いは、在りうる事と考えているのか？
- 2) また、淀川水系における今後の河川整備は、変化に富んだ地形と固有種を含む多様な生態系が残されていた頃の河川環境を目指す。としているが、それは何時の事か？
- 3) 高山ダムでは、(循環曝気設備のお陰か?) 2003年以降、アオコは確認されていない。(P.12 22 図)とされているが、私は2006年8月に2回の調査で確認し、第52回流域委員会に於いて発表している。それでもアオコは発生していなかったと言うのか？
- 4) ダムでの堆砂による土砂の連続性の遮断に対し、これを解消し得る計画案は存在するのか？それを実行する年間予算を示されたい。
- 5) オオサンショウウオの生息・生育環境の保全について、どのような計画案が存在するのか？
- 6) 川上ダム建設予定地河川＝前深瀬川、川上川は、非常に密度の高いオオサンショウウオの生息・生育環境を持つ河川として有名になっているが、この環境を守るため、どのような保全策を考えているか？
- 7) 原案でさえ、唯一の具体策が「人工巣穴の設置等」であるということは、「川上ダム建設にとって邪魔なオオサンショウウオは上流に移転させ、その生息・生育環境を破壊し、冷たいコンクリート製「人工巣穴」にでも引っ込んでおれ！」という事を意味しているのではないか？
- 8) 「川上ダム オオサンショウウオ群移転計画」の詳細を明らかにして貰いたい。
- 9) 「大阪サンショウウオの会」によれば、淀川水系にはまだまだ多くの川にオオサンショウウオが発見されないまま、河川の改修工事、災害復旧工事などが事前の環境調査をしないまま進められることで、多くの生体への加害、生息・生育環境の破壊を伴っている事実が紹介され、警鐘が鳴らされている。  
このような実態を改善する為、もっと「環境を重視し、より多く、より深く、河川環境の調査を進めなければならない。」と考えるが、いかがされるか？
- 10) 「高水敷の切下げ」について明確な表現がないが、これはしないと  
言うことか？すると言うことならどの範囲をするのか？
- 11) コンクリート護岸の覆土は、洪水時に剥がれ易いと思われるが、大丈夫であるという  
実験データが存在するのか？(P.16 31 図)

12) 「既設護岸を存置」となっているが、この撤去を何故考えないのか？ (P.16 31 図)

13) 景観：ダム貯水池裸地対策が高山ダムの例として示されているが、このダム湖において湛水前の月ヶ瀬地域は「日本一の名勝＝月ヶ瀬煤溪」を誇っていた。これを破壊して高山ダムが建設された経緯からして、「裸地対策」としては一步進んで、水際に「梅樹植林」を実施する考えは起こらないか？

これは景観上、草本よりも有効で、水源地域の観光立地回復の一助ともなろうと思われるが・・・。